

## 平成30年度広島市民球場運営協議会 会議要旨

### 1 開催日時

平成31年3月22日(金) 14:30~15:30

### 2 開催場所

広島市役所本庁舎14階 第7会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員(14名)

田邊 昌彦、深山 英樹、西川 正洋、野坂 文雄、岡島 鉄也、永野 正雄、  
久光 博智、徳田 洋子、石井 健一郎、曾根 幹子、富川 久美子、  
近藤 敏博、部谷 京子、松田 元

#### (2) 広島市

松井市長、岡村副市長、山地都市整備局長  
油野都市機能調整部都市再開発担当部長  
大塚広島駅周辺地区整備担当課長

#### (3) 株式会社広島東洋カーブ

原垣内取締役管理本部本部長

### 4 議題

- (1) 広島市民球場の運営状況等について
- (2) プロ野球興行時の来場者動向について
- (3) 2018年カーブ球団の事業実績について
- (4) 命名権について

### 5 公開・非公開の別

公開

### 6 傍聴者

一般傍聴者 0名  
報道関係者 8社

### 7 会議資料

- (1) 次第
- (2) 配席表
- (3) 委員名簿
- (4) 平成30年度広島市民球場運営協議会資料
- (5) 【参考資料】広島市民球場運営協議会関係法令

### 8 会議要旨

委員定数20名のうち出席者14名であり、定数の過半数を超えているため、協議会が有効に成立していることを事務局が説明し、議題を説明。

## <議事>

事務局： 広島市都市整備局都市再開発担当部長の油野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、開催にあたりまして、松井市長からご挨拶申し上げます。

市長： 「広島市民球場運営協議会」の開催にあたりまして、一言御挨拶をさせていただきます。

まずもって、委員の皆様方には、平素から本市行政の推進に格別の御理解、御協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

昨シーズンのカープは、人気がどんどん上がっていく中で、観客動員数が4年連続で200万人を超えるという成果を収めております。そして更には、セントラルリーグ三連覇、そしてマツダスタジアムでの初めての胴上げを、多くのファンの前で実現していただくとともに、私自身も見させていただきまして、ありがとうございます。これも、松田オーナーを始め、カープ球団の皆様方の御努力のたまものであり、深く敬意を表したいと思います。

さらに、市民球場がオープンいたしまして10周年の昨年5月でありますけれども、皆さん覚えておられましょうか、ポルトガルの2つの都市が、球場を利用してですね、私から申せば、市が進める平和への取り組みの大きな柱である事業に多大な貢献をしていただきました。アゲダ市の「傘まつり」と、カンポマイオール市の「紙花まつり」、これを我が市で再現していただきまして、野球ファンだけでなく多くの市民に見ていただきまして、さらにこのお祭りがご縁となりまして、平和首長会議に参加していただいたんですね。

この、平和首長会議、我が市の平和推進にとって大きな柱でありまして、加盟都市を拡大していくことを一生懸命しておりまして、市民社会と平和の思いを共有していただくために、なるべく多くの世界都市を入れて行こうということですが、始まりはなんと1982年でありますから、今からいうと37年前かな、荒木市長の時に始めたんですね。私が市長になる8年前までが、加盟都市は4、680都市でした。この間、これを使ってもっと広島の平和を発信しようということで増やして、現時点でなんと7、735都市。ですから8年間で3、000都市以上増やして、しかも時々刻々に増えていまして、今年の1月で7、701都市だったのが、3月で7、735都市と月ごとに増えておりまして、この広島の思いが都市レベルでどんどん広がって、そんな中でのポルトガルの2都市の加盟であります。感謝申し上げます。

また、昨年は、豪雨災害がございました。そういった中で、球団の方で多くの義援金を集めていただきました。これは、いわば人々が持っておられる共助の精神を発現させる働きを、球団あげてカープ全体でやっていただいたという風に受け止められますし、さらにはチームが快進撃を進めるということそのことは、被災者に勇気、

希望を与えるという働きをしてもらった。カープ球団の皆様にも、そういった多面的な働きをしていただいたことについて、この場をお借りいたしまして改めて感謝申し上げたいと思います。

そして、今年のカープ。新聞等賑わしております。新戦力も入りまして、活躍しますと、当然、チームの戦力アップも図られてると思います。チーム一丸となって、リーグ四連覇、日本一、松田オーナーにはちょっと荷が重いかな。そんなことはないですね。頑張っていたきたいと思います。

その上で、私としてはですね、この年間200万人を超える方が訪れるこのマツダスタジアムはですね、200万人超を目指す広島都市圏の象徴となって、そして、発展の推進役を担っていただく存在になっていただければなという思いでいるところでもあります。

本日は、委員の皆様にも、球場の運営状況や利用実績などについて御報告させていただきます。

皆様の声を今後の施設運営に反映し、より魅力のある市民球場にしていきたいと考えておりますので、是非とも、忌憚のない御意見を頂きますよう、お願い申し上げます。私の御挨拶とさせていただきます。

どうかよろしく願いいたします。

事務局： ありがとうございます。引き続きまして、委員のご紹介です。

本協議会は、球場の運営に関する報告、審議などを行うことを目的として、委員20名で構成されています。

時間の関係もございますので、皆様のご紹介は、お手元の「委員名簿」に代えさせていただきます。

なお、本日は、荻田委員、池田委員、神出委員、山本委員、圓山委員の5名の方は、所用によりご欠席となっております。下中委員は少し遅れておられるようです。

本協議会は、委員の過半数の出席により成立することとなっており、本日は20名のうち14名の委員にご出席いただいておりますので、有効に成立しております。

次に、本市職員につきましては、岡村副市長ほか、担当の職員がお手元の「配席表」のとおり出席しております。

なお、本日は、議題の関係上、株式会社広島東洋カープの原垣内取締役管理本部本部長にも、事務局側に参加していただいております。

ここで、市長は所用がございますので、退席させていただきます。

それでは、まず、お手元にお配りしております資料の確認をお願いいたします。本日の「次第」、「配席表」、「委員名簿」、それと別綴じの「平成30年度広島市民球場運営協議会資料」及び「参考資料」でございます。

本日の会議は、お手元の次第に沿って進めてまいりたいと考えております。

この度の運営協議会は、委員改選後、最初の開催となりますので、まず、「会長、副会長の選任」を行っていただきたいと思います。

お手元の参考資料の「広島市民球場運営協議会関係法令」をご覧ください。広島市民球場条例施行規則第7条第5項では、「協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選によってこれを定める。」と規定しています。

どなたか会長に立候補又はご推薦いただけないでしょうか。

委員： 広島商工会議所会頭の深山委員を会長にご推薦したいと思います。

事務局： ただいま永野委員から、会長に深山委員をご推薦したいという声がありましたが、皆様いかがでしょうか。

(異議なし)

それでは、深山委員に会長をお願いいたします。

深山委員には、会長席に移動をお願いいたします。

それでは、深山会長、一言ご挨拶をお願いしたいと存じます。

会長： 会長を務めさせていただきます深山でございます。

先程、市長からもお話がありましたように、昨シーズン、広島東洋カーブは3年連続のリーグ優勝を成し遂げられ、また、地元では27年ぶり、2009年に開場した市民球場では初めての胴上げとなり、広島の街も大いに盛り上がりました。

観客動員数も毎年、球団記録を更新していると聞いておりますが、これはカーブ球団はもとより、球場そのものも多くのファンに愛されている結果であり、広島の魅力づくりと経済の発展に大いに貢献しているものと考えます。

さて、本協議会は、市民球場の運営に関する重要な事項を審議することを目的に設置されたものです。

本日は、球場の運営状況や利用実績などについて、報告があると伺っておりますが、今後、更に魅力を高めていくため、皆様の忌憚のないご意見を頂戴したいと思いますので、どうかよろしくお願いします。

事務局： ありがとうございました。

それでは、ここからは、会長に議事の進行をお願いいたします。

会長： それでは、次に副会長の選任に移ります。副会長も委員の互選により選任することになっておりますが、私から公益財団法人広島市スポーツ協会の野坂委員を副

会長にご推薦したいと思いますが、皆様いかがでしょうか。

(異議なし)

それでは、野坂委員に副会長をお願いいたします。

野坂委員には、副会長席に移動をお願いします。

それでは、これより議題に入ります。

まず、議題1「広島市民球場の運営状況等について」です。内容について、事務局から説明をお願いします。

事務局： はい、それでは事務局からのご説明を行います。私は、広島市都市整備局広島駅周辺地区整備担当課長の犬塚でございます。どうかよろしくをお願いいたします。それでは、お手元の平成30年度広島市民球場運営協議会資料によりましてご説明をいたします。1枚、2枚めくっていただきまして、1ページをご覧ください。一番上のところですよ。

「1 広島市民球場の運営状況等について」です。

まず、「(1)平成30年度の施設利用状況」についてです。表にまとめております。区分欄のところ、プロ野球興行として、レギュラーシーズンが70日、オープン戦が4日、読売ジャイアンツとのクライマックスシリーズが3日、ソフトバンクとの日本シリーズが3日、11月の日米野球が1日、ウエスタンリーグが4日の計85日の利用になっております。この他、高校野球等のアマチュア野球が73日、イベント等が34日、コンコース開放が81日、雨天中止となった日数も含めて、合わせて298日となっております。

次に、「(2)平成30年度の施設見学の状況」についてです。

区分欄でございます。コンコース開放は、日数が81日、人数が3万6,396人となっております。また、カープ球団が実施されているスタジアムツアーは、日数が54日、人数が1万1,474人となっております。その下、社会見学が、日数が11日、人数が1,003人となっております。これらを合わせた合計は、日数が146日、人数が4万8,873人となっております。

続きまして、その下、「(3)指定管理経費等の収支状況」についてです。

指定管理者につきましては、市民球場は開設当初の平成21年度から現在まで、広島東洋カープを指定管理者として、球場の管理運営を行っております。その運営の仕組みにつきましては、利用料金制を導入しておりまして、プロ野球試合等の開

催にかかる球場利用料金を指定管理者の収入とし、これを維持管理経費に充てる  
とともに、残余の額を指定管理者納付金、これは下限額を最低2億1,100万円  
としておりますけど、これを市に納付してもらう、こういう仕組みとしております。  
その下に掲げております表は、指定管理者としての収支を表したもので、まだ、3  
0年度決算ができておりませんので、29年度の決算を記載しております。収入  
につきましては、予算額4億7,022万8千円に対しまして、決算額6億2,1  
36万2千円と、決算額が1億5,000万円ほど予算額を上回っております。これ  
は、プロ野球開催にかかる球場の利用料金につきまして、有料入場者数100万  
人を超えた場合に、加算金を頂く仕組みとしておりまして、そうした中で、29年  
度のレギュラーシーズン入場者数は215万人と、当初見込みを大きく上回った  
こと、また、クライマックスシリーズを開催したことなどによりまして、予算額を  
上回る収入となったものでございます。一方、支出につきまして、まず、内訳の欄  
の維持管理費ですが、右側の決算額は2億6,142万7千円となっており、修繕  
料の増などにより、予算額よりも約220万円増加しております。次に、市への納  
付金につきまして、右側の決算額は3億5,993万5千円で、これは先ほどの収  
入決算額6億2,136万2千円から維持管理費の決算額2億6,142万7千円  
を控除した額でございます。市では、この納付金を球場建設にあたり発行した市債  
の償還財源などに充てております。

続きまして、2ページをご覧ください。

「(4)平成30年度に実施した観戦環境の改善」についてです。

毎年、新たなシーズンに向けた施設の改善、改修につきまして、公設の野球場と  
して必要不可欠な施設については広島市が、プロ野球の本拠地球場としての魅力  
作りに関わる施設についてはカープ球団が、この役割分担を基本としながら整備  
を進めているところでございます。30年度の取り組みとして主なもの、ア～エま  
での4点をご紹介します。

まず、「ア 電光式スコアボード設備等改修工事」についてです。

右側に写真を掲げております。上が改修前、下が改修後となっております。この  
スコアボード改修にあたりましては、広島市整備分として、(ア)改修の概要に記  
載のとおり、LED画面の大型化を行っております。事業費は、3億6,720万  
円、完成時期は、本年2月26日です。そして、カープ球団整備分としていますが、  
この大型化した画面を使って、画面分割により多くの来場者を映したり、病院や遠  
隔地での観戦の様子を映すことができる、演出用の操作機器改修をカープ球団に  
整備していただいております。事業費は、3億2,800万円、完成時期は、本年  
2月26日でございます。

次に「イ 3階コンコース塗膜防水改修工事」についてです。

これは、本市が整備したものです。(ア)の改修工事の概要ですが、床ウレタン塗膜防水改修を行うもので、下の配置図をご覧くださいと、水色に塗った部分が工事の箇所でございます。事業費は6,252万円で、本年2月28日に完成しております。

次に、「ウ 観客席整備 (ハートフルシート)」についてです。

これは、カープ球団に整備していただいているものでございます。改修の概要ですが、車いす専用のグループ席を整備するもので、整備箇所は、左下の配置図を見ていただきますと、オレンジ色で塗っておりますけれども、バックネット裏のやや1塁側の内野席の後ろ、コンコースと同じ高さ部分に整備するものでございます。定員は7名、事業費は1,300万円、完成時期は本年3月23日、明日の予定でございます。

続きまして、「エ 観客席整備 (バスタベリア)」についてです。

これも、カープ球団に整備していただいたものです。改修の概要ですが、バスタブにクッションを敷き詰めた席を、現在、寝ソベリアがある場所の後方部分、コンコースと同じ高さ部分に整備するものでございます。2名用が6席で12名分、事業費が3,000万円、本年3月1日に完成しております。

以上で説明を終わります。

会 長： はい、ありがとうございます。ただいまの説明につきまして何かご質問、ご意見はありますか。

(質問・意見なし)

会 長： 特にないようでございますので、引き続き議題2の「プロ野球興行時の来場者動向について」から、議題4の「命名権について」までを一括して、事務局から説明をお願いします。

なお、議題3の「2018年カープ球団の事業実績について」は、広島東洋カープの原垣内本部長からご説明をお願いします。

事務局： それでは、3ページをご覧ください。

「2 プロ野球興行時の来場者動向について」です。

これは、球場がオープンした平成21年度から毎年、1試合ほどアンケート調査をしておりまして、資料には直近の5年分を記載しております。

まず、「(1) 調査概要」です。平成30年度は、黒囲みをしておりますけど、8

月10日の金曜日、ナイトゲーム、巨人戦で行っております。配布数は1,100枚、1,050枚を回収しております、有効回収率が88.4%でございます。

続きまして、その下「(2) 調査結果」。

まず、「ア 性別」ですが、男性と女性の来場者の割合は、少し動きはあるものの、ほぼ同じ割合になっております。平成30年度は、男性が50.6%、女性が49.4%となっております。

続いてその下、「イ 年代」です。やや濃いピンク色の真ん中あたり40歳代ですけれども、これ以上が毎年度、約6割を占めております。また、一番左側の20歳未満、この割合が年々増加をしております。

続きまして、4ページをご覧ください。

「ウ 来場者住所」です。

左側のピンク色ですけど、広島県外からの来場者の割合が、平成27年度以降増加をしております、平成30年度は約4割を占めております。

続いてその下、「エ 年間来場回数」です。

左から二番目の2回～5回の方の割合が最も多く、また、一番左側の今回初めての方の割合が平成27年度以降増加をしております。

それでは、5ページをご覧ください。

「オ 観戦人数」です。毎年度、左から二番目の2人～4人が、概ね7割となっております、平成30年度は74.8%となっております。

続いてその下、「カ 観戦の同行者」です。

これは、上記の回答者のうち、2人以上での来場者の方にお聞きをしております。毎年度、家族・親戚の割合が最も多くなっており、平成30年度は67.8%と7割近くとなっております。

続いて6ページをご覧ください。

「キ 野球観戦後の交通手段」です。毎年度、約半数が真ん中あたりのオレンジ色の公共交通機関を利用しており、平成30年度は47.1%となっております。

続きまして、「ク マツダスタジアムの評価」について。

まず、「(ア) 球場の楽しさ雰囲気」です。毎年度、「満足」と「やや満足」をたした割合が9割を超えております。

7ページをご覧ください。

「(イ) 清潔感」です。毎年度、「満足」と「やや満足」をたした割合が概ね8割を超えております。

その下、「(ウ) 座席の快適性」です。毎年度、「満足」と「やや満足」をたした割合が概ね6割となっておりまして、平成30年度は67.1%となっております。

8ページをご覧ください。

「(エ) スタッフの対応」です。毎年度、「満足」と「やや満足」をたした割合が7割を超えております。

その下が、「(オ) 総合的な満足度」です。平成28年度以降、「満足」と「やや満足」をたした割合が9割を超えております。

続きまして、9ページをご覧ください。

「コ その他」として、アンケート調査の自由意見欄にいただきました主な意見をご紹介します。概ね好印象の意見となっております。ここにつきましては、のちほどご覧いただければと思います。

以上で「2 プロ野球興行時の来場者動向について」の説明を終わります。

事務局： 広島東洋カープの原垣内でございます。

議題「3 2018年(平成30年)カープ球団の事業実績について」説明をさせていただきます。資料の10ページでございます。

まず、「(1) プロ野球入場者数」でございますが、2018年は新球場10年目のシーズンでございましたが、地域の皆様方やファンの方々のご支援をいただき、レギュラーシーズンのみ公式戦入場者数は、本拠地球場が70試合で220万5,167人、その他球場は2試合2万6,933人、合わせて72試合、223万2,100人となりました。前年に比べまして5万4,546人の増加でございました。

次に、「(2) 経営状況」でございますが、2018年12月期の決算数値は3月27日に開催いたします株主総会の承認により、確定いたします。記載しております数値は株主総会に諮る決算案の数値でございますが、売上高は189億4,200万円で、前年に比べて1億3,500万円増加いたしました。当期純利益は9億3,000万円で、前年に比べ3億6,600万円の減少となりました。

続いて、「(3) 地域貢献活動」でございますが、2018年の啓発活動、地域交流活動などに引き続き取り組んで参りました。地域貢献活動の合計件数は401件でございます。

以上、議題3についての説明を終わらせていただきます。

なお、今シーズンの前売り入場券の窓口販売にあたりまして、販売方法の改善をはかるべく、抽選券方式を採用いたしましたけれども、結果として大混雑を起こしてしまい、地域の皆様、ファンの皆様をはじめとして、関係者の皆様方に多大なご迷惑をおかけいたしました。この場をお借りして、改めて深くお詫び申し上げます。今後の観戦チケット販売方法につきましては、より多くのファンの皆様にチケットを手にしていただけるように、販売に関わる混雑の面も含めて、より円滑な形で販売できる方法を、広島市とも協議しながら、検討を進めてまいりたいと考えております。

事務局： 先ほど説明がありましたチケットの販売方法につきましては、広島市もしっかりとカーブ球団に協力していきたいと考えております。また、カーブ球団から同じく説明がありました2018年の売上高、当期純利益につきましては、株主総会前ということで、取扱注意をお願いいたします。マスコミ各社におかれましては株主総会開催まで報道されないようお願いいたします。

それでは、引き続きまして、議題の「4 命名権について」です。11ページをご覧ください。

命名権制度は、計画的に大規模改修や施設改善等を行うための財源を確保するために導入したものです。

「(1) 契約概要」ですが、平成21年度からの5年間に引き続きまして、平成26年度からの5年間も、マツダ株式会社に命名権取得者となっていただいております。命名権料として、毎年2億2,000万円を納付いただいております。なお、少しスペースをあけて記載をしておりますが、来年度からの5年間につきましても、マツダ株式会社に命名権を取得していただきまして、その名称も契約金額も継続していただける、このようになっております。

「(2) 社会貢献活動」です。命名権取得者であるマツダ株式会社は、球場を核として、地域に貢献するパートナーとして、様々な社会貢献活動に取り組んでおられます。

ここでは平成30年度の活動実績をご紹介します。

表をご覧くださいますと、「(ア) 広島県営林 J-VER の購入」です。

球場のナイター照明で消費する電力に伴う温室効果ガスを、森林に吸収させて相殺するため、広島県営林 J-VER を購入し、間伐植林の費用等を負担されております。

その下、「(イ) マツダ車の贈呈」です。

球場の来場者 100 万人毎に車両を贈呈されております。平成 30 年度は、6 月 10 日の 1, 700 万人の達成に合わせて、社会福祉法人やぎへ、9 月 22 日 1, 800 万人の達成に合わせて、社会福祉法人いくせいへ、それぞれ車両を贈呈されました。

続いて、「(ウ) 球場周辺の清掃美化活動」です。プロ野球シーズン中に、マツダ株式会社社員とその家族の皆さんによる球場周辺の清掃を実施されております。

その下、「(エ) ヘリテージコーナーの設置」です。広島市、カープ球団、マツダ株式会社の挑戦をテーマにしたディスプレイを球場内 3 階コンコースに設置されております。

「(オ) 球場の情報発信」です。マツダ株式会社の WEB サイト等各種媒体を通じて、市民球場の情報を発信されております。

以上で、事務局からの説明を終わります。

会 長： はい、ありがとうございます。以上をもちまして、何か、御質問、御意見がありましたらお願いいたします。

委 員： まず、1 点はですね、アンケートを見させていただいてもわかるように、指定管理者として、カープ球団がスタジアムの施設の価値を大きく高めていただいていることは、市民としても胸をはって大変ありがたいと思います。感謝申し上げます。このスタジアムを観に、私も休日に観に行ったりすることはあるのですが、大変多くの方が数字にもでていますが、大変多くの方がグッズを買いに行ったり、スタジアムを観に来られています。本当にこの球場だけで、広島市の価値をあげているのではないかと思っています。

それから 2 点目なんですけど、チケットの件を先ほど言われていましたが、大変混乱していたと申されていましたが、私はお詫びの必要は全くないと思っております。球団も想定外だったと思うのですが、ファンにとっても想定外のことで、ネットを見ますとカープ球団の公平・公益性とかですね、球団自体がもっている真面

目さというか、誠実さがあらわれた結果であろうと、好意的に受け止めているファンも沢山いましたので、これから改善されていくとは思いますが、これは球界全体で取り組まないといけないのではないかと、私自身は思っております。

それから3点目は、ご質問させていただきたいのですけれども、これから南海トラフに大きな地震が来るだろうと言われております。それで、広島に来ないとは限らないわけで、その時に一番私が心配しているのは、観戦中に大きな地震が起きた時に、これは球団だけでなく広島市にも関わってくると思うのですが、どのように避難させるのか、どこが、何か落下がありそうなのか、それはわからないのですが、想定外のことが起こりますから、どういうふうに対応するのかということの検討されているのかどうか、ということに関して少しお聞きしたいと思います。

事務局： マツダスタジアムにつきましては、非常に多くの方が来場されて観戦されるということがありますので、そういった非常時にあたりましては、避難の経路、何よりも耐震高度というものにしっかりと気を配りながら建設をしております、万が一のためにも避難経路というものにつきましてはきちんと適切に確保して、誘導の体制もしっかりととっていくといったところで、整理をしているというところでございます。

会長： 最初の2点について何かコメントはございますか。オーナー、もしあれば。

委員： 今年の売り方は実にまずいことをしたと思って、来年は色々と考えてやらないといけないなと思っております。私どもの持ちゲームというのが、72試合の年と71試合の年がありまして、そのうち2試合を地方に持っていくことを、原則にして今までやってきましたが、今年の2019年のシーズンに関しては、71試合の年なんで、それを2試合持っていくと、69試合になるんですね。69試合になると、沢山の人が来られないだろうからということで、地方試合を1試合減らしまして、去年と同じ数字に調整をしたつもりなんです。それで、もう1試合、地方試合をやめればよかったんですけど、地方との繋がりとかそういうものを大切にす球団ですから、1試合だけはやめて、数を去年なみの数でいこうじゃないかということでやってみたんです。それが結果的にはあんなにお客さん来られて、私どもの対応が非常に悪くて、非常に申し訳ないと思っております。

また来年は、オリンピックの年で、また混乱する要素があると思っております。我々は来年に限らず、それから先のこともしっかりと考えていきたいと思っております。

会長： その他、何かございますでしょうか。

委員： あの、素朴な質問なんですけど。席の数をもっと増やすというのは、もう限界ですかね。

委員： うちだけで増やすわけじゃないですから。方法については、投資効果を考えたら、勝っている時はよいが、どうなんだろうかと思ったりもするんです。さっき言ったように、投資をやるよりも、例えば、地方試合を2試合やるんですけど、今年は1試合にする、来年は地方試合を0にしたら、じゃあ、その段階だけでも2万何席増えるわけです。

委員： それを楽しみにされておられる方が。

委員： そうなんです。我々が一番手早く、なおかつ、広島市もうちの方もあまりお金をかけなくてできる方法というのは、うちの方で地方試合を減らすことによって調整はできる。だいたい、年間指定席を除いた2万4,000席くらい増えるわけです。それが例えば1,000席の席を作ることによって、だいたい71試合としたら7万1,000席になりますよね。7万1,000席を増やすために、大きな投資をする方がいいのかどうかという考え方です。

委員： はい。わかります。はい、難しいですね。

委員： いや、難しいわけじゃないですけど、ある程度、そこらは考えてないといけないんじゃないかと思う。投資効率を考えていった時に、今の段階で、無理に席を作るということはどうだろうか、自分の中では思っているところなんです。

委員： まあ、アンケートにもあるように、今回初めての人が凄く増えているじゃないですか。私の周りでも、東京でも、カーブ観たいという人がもの凄くいっぱいおっつんですよ。ただ、チケットがっていうことがあるので、私自身も本当に、チケットが全然とれてなかったりするんで、そこが何とかならんかなということだけです。本当にカーブは強いし、本当によかったと思っているんですけど。本当そこだけです。

委員： 申し訳ない。

委員： はい。人気があるっていうのはありがたいですね。チケットを持ってるだけで凄く尊敬されますから。

会長： その他、何かございますでしょうか。

委員： 先ほど、災害時の対応で、スタジアムはちゃんとしているということで、非常に安心いたしました。で、もし災害が起こった場合に、ご近所の人がそこに行けるような体制はあるんですか。

事務局： はい。お答えします。広域の避難場所としてスタジアムは位置づけておりますので、そういう形でご近所の方もですね、避難ができる場所としての位置づけをしております。

その上で、試合中にそうしたことが起きた時に、その避難の動線とですね、ここに避難に来られる方の動線と違ってというのは、その状況を見ながら整理をしていくということになると思います。

委員： そうですか。あの、備蓄とかそのあたりのことなんかね。

事務局： そうですね。スタジアムにはですね、その備蓄の倉庫を設けてあります。

委員： ありがとうございます。安心しました。

委員： 一時的には、うちの試合中ということであれば、うちの球団が表にできるような形になると思います。

委員： そうですか。

委員： これは、うちの方はちゃんとマニュアル作って対応できるようにしています。

試合中、一番恐いのはやっぱりパニックだと思ってます。パニックが起これないような形で、厳正な対応ができるような形になってもらい、それから、移動して、避難していくというような概念で、対応するようにしています。

委員： ありがとうございます。

委員： それ以降は広島市で。

事務局： しっかり連携してやって参ります。

委員： 当然、連携ができているとは思いますが。

委員： あそこは（仮設）トイレができるんですよ。

委員： 知っております、はい。

委員： 仮設トイレができるんですね、お年寄りが避難された時、うちは興行できませんけど、仮設トイレもできるような構造になっているんですよ。あれは素晴らしいと思っています。

委員： そうですね。はい、ありがとうございます。

会長： 男性の方、何かないですか。

委員： 広島県でございます。行政の立場からお礼を申し上げたいと思います。

先ほど、カープ球団が行われております地域貢献活動、ご報告がありました。ご存じかもしれませんが、実は毎試合、カープが大型ビジョンで、県の広報を応援することを認めていただいております。ですから、先ほど220万5,000人の観客が来られました。去年一年間、県の広報番組をですね、220万の方にPRすることができました。そういった意味でも、大変大きな広報等の地域貢献を担っていただき、また今年もよろしく願いいたします。ありがとうございます。

会長： ありがとうございます。他になければ。

委員： よろしいですか。

会長： はい、どうぞ。

委員： カープが盛り上がっているのは、大変私どもも嬉しく思います。

どこがどこの範疇になるかっていうのもあるんですが、試合の時の周辺ですね、交通混雑、こと東大橋。まあ、そのあたりですね、試合になったら周辺の交通が止まってしまう、というようなご意見があると思います。そのあたりをどのように考えられておられるか。範疇がどこにあるかというのもありますけど。

会長： ありがとうございます。

委員： 範疇と言いますと、私どもの範疇は、駅から球場までが、うちの範疇だと思っているんです。試合開始前、終了後に、カープロードは、ガードマンを置いて、愛宕踏切から球場側を封鎖して、絶えず交通がうまくいくような形はとっているんです。それは十分かどうかというのは、私どもではわかりません。

交通の方は私どもも、わからないので。でも、マツダも大変でしょう。マツダの通勤もありますし、大州街道に高速の入口ができてから、大州街道が更に混むようになりましてね。球場ばかりじゃなくて、球場ありきの問題かと思います。

会 長： 市の方、お願いします。

事務局： 試合開催等にかかります周辺への交通混雑等の影響に関しましては、これからもですね、現在色々とカープ球団とも協議させていただきながら、手を打っているところでもありますけど、継続して、例えば警察の方、地元の方、色んな意見を聞きながらですね、その都度ですね、適切な対応を、できることは何かと考えながら対応していきたいと思います。

委 員： よろしくお願いします。

会 長： それでは、最後に松田オーナーから。

委 員： 今シーズンは若干不安に思っているんです。何故かと言いますと、だいたいオープン戦が悪いと、いいんですよ。今年は、さっき聞いてみたら2位じゃと言う。これはちょっと何かよくないのう。統計を見ると、チーム打率が2割3分9厘で、防御率が3.57。これは決してええもんじゃないんですよ。その割になぜ、うちは2位にいるんだろうか。7勝3敗3引き分け、そういうような状況なんですね。なぜ勝てるかという、新井選手が引退試合の時、私のところに来て、「やっぱり経験値が全然違う」という話をしてくれたんですよ。よその球団へ取材に行くと、「何でカープは強いんか」とインタビューされて、非常にいい気持ちになったという話をしてくれたんです。まず、彼が言っていたのは、勝ってきた経験値、これは凄く役に立つんですよということと、もう1つは、よそにない団結というんですかね、兄弟の絆みたいなものが、チームの中にあるんですよ。これがなければ、個々で戦うような感じですけど、兄弟のような絆があると、経験値で自分たちは勝てると思った時に、がしっとかみ合い、みんなで点を取りにいけるんです。

キャンプを見る限りにおいて心配したのは、やっぱりピッチャーをちょっと心配した。打つ方はどうにかなるような気がします。誰か出てきたりとか、小園が1軍におるんか、落とされるのかっていうのは、私の方でもわからんような状況です。でも素晴らしい選手が徐々に出てきている。これは何かというと、うちの強みであって、1軍と2軍のコミュニケーション、トップのコミュニケーションがしっかりしている。下の監督が上の監督に推薦したら、すぐ上げて、使ってくれるという、その繰り返しを、ずっとうちはしてきている。そういうところが希望が持てるころ。さっき言いましたように、ピッチャーがどうにかならんかの。どうにもなら

です。

キャンプを見る限りにおいて心配したのは、やっぱりピッチャーをちょっと心配した。打つ方はどうにかなるような気がします。誰か出てきたりとか、小園が1軍におるんか、落とされるのかっていうのは、私の方でもわからんような状況です。でも素晴らしい選手が徐々に出てきている。これは何かというと、うちの強みであって、1軍と2軍のコミュニケーション、トップのコミュニケーションがしっかりしている。下の監督が上の監督に推薦したら、すぐ上げて、使ってくれるという、その繰り返しを、ずっとうちはしてきている。そういうところが希望が持てる場所。さっき言いましたように、ピッチャーがどうにかならんかの。どうにもならんとは言いやしませんけど、若干不安だなという部分です。皆さんを不安がらせるのも申し訳ないですけど、後ろの3名ぐらい、投げている選手がいるじゃないですか。これがやっぱり登板過多の状況に徐々になってきている。何年も短いイニングを何試合も投げていると、そういう点において、若干、不安があるかもしれないなということです。でも、本当に、これだけ応援していただいているんですから、ぜひ四連覇して、それと日本一、日本一になりたいですよね。日本一ね。それを目指して頑張ります。ありがとうございます。

会長： それでは、以上を持ちまして、本日の運営協議会を閉会といたします。ありがとうございました。

議事録署名者

藤山英樹